

緑の風

JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2024年12月5日 No.62

東中野事故から36年

■東中野事故が「責任追及から原因究明へ」の安全哲学確立のきっかけに

1988年12月5日、運転士を含む2名の方々が亡くなり、多くの負傷者を出した「東中野事故」が発生しました。今年で36年を迎えます。

1987年の会社発足当時、わずかな列車遅延でも乗務停止やボーナスカットが行われ、危険を感じながらも運行を優先する職場風土がありました。JR東労組は「事故撲滅宣言」を発出し、「事故や災害が予測される時は躊躇することなく、列車を止めましょう」と呼びかけましたが、その1カ月後に東中野事故が発生してしまいました。



以降、人間は間違いを起こすものであることを前提に労使で議論を深め、事故から謙虚に学ぶ「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を確立しました。

■責任追及の風土を改めるためには「職場からの挑戦」が必要！

しかし昨今、経営幹部が事故・事象の発生を「たまたま」と言ってしまうなど、JR東日本の安全への向き合い方が世間から問われる事態となっています。「安全は経営のトッププライオリティ」と言いながらも、実際には長時間労働や休日出勤で乗り切るなど、現場に無理を押し付ける構図があり、それは組織再編を経て顕著になっています。また、各種事象に関係する社員に対する「聞き取り」も、高圧的で責任追及になっていると言わざるを得ません。

「安全」を実感できる職場をつくるには、真実や本音を言える職場風土が何より重要です。JR東労組に結集し、職場からの挑戦で安全風土を再確立しましょう！

本音の議論ができるJR東労組に結集し、声を上げよう！